

JUDI News

都市環境デザイン会議
Japan Urban Design Institute

発行者：都市環境デザイン会議事務局
150 東京都渋谷区広尾1-10-4 越山LKKビル内
TEL.03-5420-5995 FAX.03-5420-5996

1

1991.7.20



INDEX

- 総会議事 ————— 1
- クロストーク ————— 2
- 地方ブロックから ——— 3
- 代表幹事・委員会 ——— 4
- 発足会・会計報告 ——— 4
- 発足会参加者
- 例会のご案内

都市環境デザイン会議発足

「本日ここに、都市環境デザインに関心を持つ多様な分野の人々が一堂に会し、世界で初めて、都市環境デザイン会議が設立されたことを広く世に宣言します。そしてこれを機に、会員相互の関係を強化し、研鑽を積み、子々孫々まで誇りを持って残せる、人間にとって望ましい都市環境の形成に向けて励んでまいりたいと思います。」

1991年5月11日、東京・霞が関ビルの会議室に、設立総会議長に選出された高橋志保彦氏の発足宣言が響き、都市環境デザイン会議が発足した。設立準備段階のニュースレター1号から3号において世話人グループより呼び掛けを行い、多くの方々の賛同を得て、いよいよ任意団体としての「都市環境デザイン会議」が正式に発足した瞬間であった。

当日は、午後2時より午後7時30分過ぎまで、発足会、設立総会、設立記念行事としての「クロス・トーク」、発足記念パーティが順次開催された。出席者は総数127名。遠くは北海道、九州からの参加もあり、都市環境デザインに深い関心を持つ、多様な分野、立場、また広い年齢層の人々が初めて一堂に会した会合であったと思う。

発足会並びに設立総会は、世話人グループが準備した規約案、議案等の説明、これに対する質疑応答が行われ、殊に設立総会は、高橋議長の流麗な進行により、明るい雰囲気が進められ、また用意された議案は全て可決された。記念行事のクロス・トークは、鳴海邦碩氏をコーディネーターとして進められ、各パネリストそれぞれの強烈な個性が十分に発揮され、場内爆笑あり、大喝采ありで、当会議のスタートに相応しく、都市環境デザインに係わる考え方に

ついて深く切り込む議論が展開された。内容についてはこの冊子の後段に詳しく説明されている。

以上の行事の後、別室にて発足記念パーティが行われ、司会の篠原修氏や挨拶にたった土田旭氏の声が殆ど聞き取れない程の盛り上がりを見せるような、楽しい懇談の会であった。

また、発足会等の開催については、事前に取材依頼書を送付していたこともあり、当日行った記者会見場には、報道機関9社が取材に訪れ、翌日の朝日新聞東京版や日経アーキテクチャー5月27日号等において、当会議の発足が報じられた。【高見公男】

議会議事

都市環境デザイン会議の発足会は、設立準備会世話人の高見公男氏の司会により、同世話人の南条道昌氏の主旨説明、ついで同じく世話人の加藤源氏による経過説明がなされた後、会議の活動、組織、予算等の規約説明がなされ、当日の参加者を会員とする本会議の発足を確認した。

発足会の終了後、ただちに設立総会にうつり、高橋志保彦氏を議長に選出、ついで議事録署名人として曾根幸一氏、鳴海邦碩氏を選出した後議事に入った。議事はまず加藤源氏より、1. 入会基準について、2. 入会金について、3. 会費について、4. 協例会費について、5. 役員を選出について、6. 初年度の事業計画について、7. 委員会の設置についての各議案の説明がなされ、質疑の後原案通り可決、成立した。

議事終了後、高橋志保彦氏により発足宣言が読み上げられ総会は幕を閉じた。【上野 泰】



《都市デザインの課題を考える》

都市がどうあるべきかについてはさまざまな意見があり、また都市環境デザインが何をなすべきかについても多様な考え方がある。しかし、都市を自由に楽しい魅力的なものにしたいという思いは同じであろう。

この会議の発足にあたって、いくつかの立場から都市環境デザイン、都市デザインの課題を話し合ってみた。本会議としては最初の試みになるわけだが、そこにこれからの活動課題の芽を感じ取ることができた。クロス・トークの全容はいずれながしかの形で公表するつもりだが、まずその概要を紹介しておきたい。

話題提供者 林 泰義 (計画技術研究所)
 林 洋太郎 (三井不動産株式会社)
 橋爪紳也 (京都精華大学講師)
 森下慶子 (ケーピー)

コーディネーター

鳴海邦碩 (大阪大学助教授)

● 林 泰義

アメリカの60年代の再開発は、経済開発あるいは都心の活性化と結びついて行われたのだが、必ずしも成功しなかったとみられている。その理由としては、第一には、歴史的な町並みとか環境を全てクリアランスし、全く違うモダンなデザインで埋めてしまったことにある。第二には、そういう都心には多くの人が住んでいたのだが、そういう人々が追い出されてしまったことだ。そのためにその周辺も衰退してしまった。

いま東京では23区だけでも159の再開発プロジェクトがある。これは世界の他の都市では考えられない異常な現象だ。そこにはネイバーフッド、コミュニティを根付かせ、その力によって再び都市を再生させる、こうした発想が全くない。つまり、アメリカでかつて失敗した都市開発が行われようとしているのだ。

こうした観点からすれば、ニューヨークのブロンクスにあるバナナケリーの住宅再生活動は興味深いものである。70年代から放棄されかかった建物を自分たちで買い取り、それに手を入れて、人を住まわす。この活動が一本の通りから始まって、それが今や面的に広がり、いまでは4万戸の低所得者住宅が再生されたという。これが真の都市開発と言えるのではないか。

● 林 洋太郎

都市環境デザインには200人のデザイナーやプランナーがいれば200の案ができる。しかし、それが実現するためには、コンセンサスをえるためのパワーが必要である。プロジェクトの内容と説得しきるパワーとは五分五分の力を持っている。

それではどういう計画がいいのだろうか。自分の経

験からすれば極めて常識の延長上にあるものもいい。住宅の設計の場合はプロがやればやるほどいいものができる。しかし、都市開発に都市環境デザイナーというプロが参加すれば、なるほどというようなものができるのだろうか。

都市開発を落下傘部隊の降下のようにいわれるが、必要があるからこそそこにかけて開発をするわけだ。そうした開発によって不幸になった人は誰もいない。都市にたいしては皆多様な価値観を持っているというが、本音の価値観はお金にある。そうしたお金の面で不幸にならないような仕組みがとられることが重要で、それがあれば開発は進む。

都市開発は50年、100年先に残るものを作っていくことだ。そのためにはいい街をつくらなければならない。社会的なインパクトの大きいもの、社会資産として残るものであるべきだ。このいい街とはなにかを追求するのがプロの役割である。

● 橋爪紳也

最近の都市開発は、いってみればバブル都市開発ではないか。

汚い街で有名な大阪も、最近はずいぶんきれいになってきた。これは東京の力だといってもいい。東京から札幌をいっぱい積んだトマホーク・ミサイルが飛んできて、大阪には迎撃するパトリオットがないから、ただ撃たれるままでどんどんきれいになる。

それでも大阪にはまだ、俗悪でキッチュで繊細な、パワーの溢れる街が広がっている。そうした街があたりまえの魅力をもった街ではないか。昔のSFが描いた未来都市は空々しいが、最近のSFの都市イメージの中に在り得べき都市の像がみえるように思う。それは時間の中にある実態としての都市である。

都市開発はただきれいなものを作ればいいというのでは不十分である。最初には良かったものも30年、40年すれば崩れていく。そういう時間の中で朽ち果てていく街というものを読み込んだ計画というものがあるかもしれない。

● 森下慶子

都市開発は内容もさることながら説得するエネルギーが大事であるという発言があった。そうしたパワーも必要だが、もっとサービス精神というか、この時代に即した言葉で、普通の人もわかるように説明できないか。

霞が関の人とか、金とパワーをもった大企業の人とか、今どきお金のために仕事をしているのではないと思っている人とか、都市開発にはさまざまな人が参加し、さまざまな意見がでてくる。それにそこに関わってくる住民の方も多種多様である。そうした状況で仕事を進めるためには、誰でもわかる訴求力をもった説明のしかたやそれを可能にする場面設定が必要だ。

わたくしは博覧会の企画などに参加してきたが、異業種混合体というか、大勢の業種の違う人たちが参加して、会議を重ねたり、人を誘い込んだり、お金を引き込んだりして仕事が進んでいく。しかし、コミュニケーションが非常に難しい。おなじ日本語を使っているとは思えないほどだ。

都市環境デザイン会議はまずこうした状況におけるコミュニケーション手段を開発する必要があると思う。

● 鳴海邦碩

短い時間であったが多面的な課題が浮び上がってきた。街づくりというのは、今はまだない姿にもっていくことだから、そのイメージがそれぞれのイメージ伝達の手段がいかにあるべきかが、共通して指摘された課題のひとつであった。

また、都市におけるさまざまな現象とか都市開発をしっかりと議論することも重要な課題である。昨今たくさん都市論が展開されているが、そうした考えからもフィードバックが必要である。 【鳴海邦碩】

■ 地方ブロックから

地方の小都市に研究所を設けて早、13年目を迎えている。地方には、豊かさの尺度を換えれば、まだ多様な可能性がある。しかし、戦後の近代化の中、多くの《らしさ》が失われてしまったことも事実である。中でも都市の市街地景観は破壊的である。その意味からも、都市環境デザイン会議の発足は喜ばしい。地方で活動している会員の一人として努力していきたいと思う。しかし、どうしてもこれまでの会は、東京中心のものになってしまいがちである。たまには地方を元気づける取り組みをしてもらえれば幸いである。

【若竹まちづくり研究所所長 大谷 英二】

近年、まちが息抜きを求めている。これは、都市生活上の価値観が生産や都市基盤整備といった経済系の価値観重視の傾向から、いわゆる自然環境系、交流文化系、アメニティ系領域への関心が高まった結果にほかならない。しかしながら、地方生活をする上では、まだまだ経済系領域の価値観が優先しているのが事実であり、都市生活者と同様の道を辿る前に、ネーチャー・デザインの要素も考慮した、都市と自然との共生について考えたく、都市環境デザイン会議に学ぶ場を期待する。

【静岡県磐田市総務部企画課 係長 竹森公彦】



クロス・トーク〈都市デザインの課題を考える〉

最近、多くの分野で北海道の置かれている現状から脱却するための自己主張が目立つようになってきました。これまでの全国一律の考え方や法制度はどうも地域になじまないことが多く、この地域からの発言は、中央と地方の一般的な関係に新たな検討を求めており、都市環境デザイン会議の北海道ブロックのあり方についても同様の視点から考える必要があります。積雪寒冷の地域に住み始めて日は浅く、都市の歴史も短い北海道では、この地域特性と都市化のレベルを踏まえて、地域の要請に合わせた独自の体制とプログラムを用意し、グローバルな交流を通して自己研鑽したいと考えます。 【株式会社 北海道日建設計 富田 勲】

代表幹事・委員会

代表幹事、幹事、委員会の役割や現在の活動状況等について概要をお伝えします。

● 代表幹事

代表幹事（規約では、総会において7名以内を選任、任期は2年〈再任あり〉とされている。）は、代表幹事会を構成し、会の活動を統括、執行するとされていますが、設立当初の代表幹事については先の設立総会において、会の設立準備段階の世話人の何人かが引き続き務めることが適切であるとのことから、篠原修、高橋志保彦、土田旭、鳴海邦碩、西沢健、それに私の計6名が暫定的に1年間当たることになりました。現在は、会の活動を軌道に乗せるべく、先日代表幹事会を開き、事務局の活動を円滑に進めるための必要事項等について相談、決定しました。

● 幹事

幹事（総会において選任し、30名以内、任期2年〈再任あり〉とされている。）の役割は総会等の決定等に基づき会の運営に当たるとされていますが、具体的

には全国各ブロックごとに若干名ずつ選任され、ブロックごとの会員の情報交換、例会の開催、代表幹事会との連絡等、ブロック内の世話役的活動が主たる役割になると考えられます。会の活動を活発にする上で重要な存在ですが、設立当初の幹事については代表幹事会において人選され、決まりつつあります。詳細は次でお知らせします。

● 委員会

委員会は、会に必要な活動、あるいは会にふさわしい事業を行うために設置されるもので、会員の自由な発議に基づいて代表幹事会において設置が決められます。取敢えずは先の設立総会において広報・出版委員会、事業委員会、研究・研修委員会の3つが設置され、早速広報委員会において会報第1号が発行された他、事業委員会においては当会に依頼があった他機関の主催による講演会シリーズへの講師派遣について、テーマの相談、人選（無論、会員の中から）等に当たっています。

【加藤 源】

発足会・会計報告

内 容	収入	支出
発足会会費 (¥15,000 X 127)	1,905,000.	
霞が関東海倶楽部 費用		1,598,230.
クロストーク講演者謝礼(含 交通費)		180,000.
速記者 費用		42,000.
協力事務所受付交通費(¥3,000 X 10)		30,000.
事務用品費(ガムテープ・名札用紙)		1,081.
発足会配布資料		70,040.
入会申込書		33,990.
入会申込書返送封筒		15,450.
写真代(フィルム・現像代)		6,240.
発足会昼食代		78,840.
糸谷言十	1,905,000.	2,055,871.
差引 残高		△150,871.

▲発足会の費用は上記の通りですが、不足分は都市環境デザイン会議の初年度の会計報告の中で、会議設立のための諸経費として賄われることとなります。

編集についての御提案を お待ちしております。

「Issues and Debates」のようなコーナーを設けて例えば「京都駅舎コンペ」をめぐる賛否を紙上で戦わせるなどはいかががでしょうか。パンチのある提案を歓迎します。

【広報委員会】

■入会申込について

本会設立当初の入会受付対象者として既に入会申込書をお渡ししてある方の入会申込の期限は、これまで設立総会等でお知らせして参りましたように6月30日が締切でしたが、本号発行の時点でお申込みされていない方がおられます。入会を希望される方は入会申込書等を至急事務局までお送り下さい。

■本会の英文名称等について

国際化が様々な分野において進みつつある今日、本会においても諸外国との交流が頻繁に行われるようになると展望されます。

このようなことも考慮して、代表幹事会においては都立環境デザイン会議の英文名称について米国人、英国人の意見も聞きながら検討して参りました。英文名称も会の性格、あるべき姿を的確に表すものであることは言うまでもなく、様々な議論の結果、この度、

Japan Urban Design Institute (略称JUDI)

が最もふさわしいということになりました。

略称のJUDIは無論ジュディと発音することになりますが、略称として馴染み易く、また広く世の中にも定着し易いものと思っております。また、「都市環境デザイン会議」の、名称とともに「JUDI」が定着することも狙いとして、これまで本会の発足準備段階において発行してきた「NEWS」を「JUDI-News」とすることとし、併せて本会が正式に発足したことも期して、本号を第1号とすることに致しました。

なお、本会の英文の名称については次回の総会において諮り、正式に決定致したいと考えております。

【代表幹事会】

都市環境デザイン会議 広報委員会

井口 勝文	上野 泰
江川 直樹	大塚 守康
榊原 和彦	佐野 寛
菅 孝能	近田 玲子
鳴海 邦碩	林 泰義

〒150 東京都渋谷区広尾
1-10-4 越山LKビル
TEL:03-5420-5995
FAX:03-5420-5996

発足会参加者

- | | | | |
|-------|---------------------|--------|----------------------|
| 朝倉 悟 | 通産省貿易局検査デザイン行政室 | 滝口 秀夫 | クラブアート(株) |
| 天野 光一 | 東京工業大学工学部社会工学科 | 竹森 公彦 | 静岡県磐田市総務部企画課 |
| 池田みち子 | メイフィア | 田中 直子 | クラブスケープ研究機構 |
| 五十川 勝 | (株)M・I・都市設計 | 玉木 伸秀 | (株)景観工学研究所 |
| 伊藤 洋 | (株)都市環境計画研究所 | 近田 玲子 | (株)近田玲子デザイン事務所 |
| 伊藤 光造 | (株)地域まちづくり研究所 | 地福 由紀 | (株)アトリエ福 |
| 伊藤 清忠 | 東京学芸大学美術教育学科 | 土田 旭 | (株)都市環境研究所 |
| 伊藤 登 | (株)プランニングネットワーク | 土屋 邦男 | 建設大臣官房営繕計画課 |
| 伊藤 勝彦 | (株)日建設計画事務所 | 常光 孝彦 | 常光都市・建築設計研究所 |
| 井上 尚夫 | 井上尚夫総合企画 | 戸田 芳樹 | (株)戸田芳樹風景計画 |
| 井口 勝文 | 環境開発研究所 | 富田 勲 | (株)北海道日建設計 |
| 上野 泰 | ウエノ・デザイン | 鳥越けい子 | クラブスケープ研究機構 |
| 植本 俊介 | (株)環境設計研究所 | 土井 眞一 | (株)ミライ総合開発研究所 |
| 上山 良子 | 上山良子ランドスケープデザイン研究所 | 中尾隆太郎 | 日本電池(株)照明事業部 |
| 内村 雄二 | アルバック 地域計画・建築研究所 | 中嶋 猛夫 | 外部環境設計 |
| 大石憲治郎 | (株)大石造園設計事務所 | 中野 恒明 | (株)アプル総合計画事務所 |
| 大久保裕文 | 大久保計画アトリエ | 成瀬 恵宏 | (株)都市開発技術サービス |
| 大塚 幸雄 | (株)B U L 街づくり研究所 | 鳴海 邦碩 | 大阪大学工学部環境工学科 |
| 大塚 守康 | (株)ヘッズ大阪本社 | 南條 道昌 | (株)都市計画設計研究所 |
| 大野美代子 | (有)エム・アド・エム デザイン事務所 | 南條 洋雄 | (株)南條設計室 |
| 大野 暢久 | 住宅・都市設備公団南多摩開発局 | 西岡 誠治 | 建設省関東地方建設局 |
| 小川 三郎 | 住友軽金属工業(株)加工本部 | 西沢 健 | (株)G K設計 |
| 小倉 善明 | (株)日建設計 | 西田 勝彦 | (株)西田・石田総合計画事務所 |
| 小澤 尚 | (株)小澤設計計画室 | 西村 政昭 | 日本電池(株)照明事業部 |
| 押田 健雄 | テイクナイン計画設計研究所 | 西脇 敏夫 | 横浜市都市計画局都市デザイン室 |
| 落合 庸人 | 住宅・都市設備公団 | 野崎 悠子 | 愛知県立芸術大学美術学部 |
| 尾登 誠一 | デザインスタジオ スパラル | 野田 理吉 | 愛知県立芸術大学美術学部 |
| 片桐 京子 | (株)都市環境研究所 | 長谷川 智也 | (株)グリーンシグマ |
| 加藤 晃規 | 大阪大学工学部環境工学科 | 浜 恵介 | 住宅・都市設備公団東京支社 |
| 加藤 修 | (株)ヘッズ東京支店 | 林 泰義 | (株)計画技術研究所 |
| 加藤 源 | 日本都市総合研究所 | 林 英光 | 愛知県立芸術大学美術学部 |
| 金丸 宜弘 | (株)曽根幸一・環境設計研究所 | 伴丈 正志 | 愛知県立芸術大学美術学部 |
| 金谷 啓紀 | 金谷啓紀建築都市デザイン研究所 | 笛木 坦 | 住宅・都市設備公団 |
| 菊地 武則 | ラック計画研究所 | 府川 充 | (株)G K総合企画部企画開発室 |
| 岸井 隆幸 | 建設省都市局区画整理課 | 福沢 健次 | (株)ユニテ設計・計画 |
| 北原 理雄 | 千葉大学建築学科 | 藤井 経三郎 | (株)R I V アソシエーツ |
| 木村 優 | (株)アトリエ74 | 藤江 秀一 | (株)磯崎新アトリエ |
| 窪田 陽一 | 埼玉大学工学部建築工学科 | 藤森 幹人 | (株)都市計画設計研究所 |
| 栗原 裕 | 日本都市技術(株)地域デザイン室 | 藤本 昌也 | (株)現代計画研究所 |
| 黒川 淳子 | 環境色彩研究所 | 藤原 肇 | (株)マーケティング企画 |
| 越沢 明 | 神奈川県都市部都市計画課 | 細野 透 | 日経マグローウヒル社 |
| 小林 昭 | 船橋市建築局 | 堀 繁 | 東京大学農学部林学科 |
| 小林夜詩子 | 日本ペイント(株) | 松井 雅彦 | 住宅・都市設備公団 |
| 小林 英夫 | 遊美野工房(株) | 松井 基芳 | (株)長大環境計画部 |
| 坂本 進 | 竹中工務店開発本部 | 松谷 春敏 | 建設省都市局区画整理課 |
| 作山 康宏 | (株)都市環境研究所 | 松丸 武 | (株)カック |
| 酒本 宏 | 和光技研(株) | 松本 稔 | 松下電工(株)東京照明 E C |
| 佐々木政雄 | (株)アトリエ74建築都市計画研究所 | 満園 武雄 | (株)石勝エクステリア |
| 佐々木 葉 | 東京大学土木工学科橋梁研究室 | 宮前 保子 | (株)スペースビジョン研究所 |
| 佐野 寛 | (株)エス・アドバイジング | 面出 薫 | ライティング・プランナーズ・アソシエーツ |
| 佐保 肇 | (株)日本設計 | 森 俊偉 | 森俊偉 + ARCO建築・計画事務所 |
| 篠原 修 | 東京大学工学部土木工学科 | 森 延彦 | 静岡県都市住宅部都市政策室 |
| 下村 彰男 | 東京大学農学部林学科 | 森田 昌嗣 | (株)G K設計 |
| 菅原由美子 | (株)ラック計画研究所 | 屋代 雅充 | (株)ラック計画研究所 |
| 菅 孝能 | (株)山手総合計画研究所 | 山内 英生 | 山内 G A U 一級建築士事務所 |
| 鈴木 茂 | 静岡県富士市総務部企画課 | 山本 誠 | (株)ワイディー |
| 関 正和 | 建設省河川局治水課 | 山本 忠順 | (株)L A U 都市施設研究所 |
| 曾根 幸一 | (株)環境設計研究所 | 山本 忠夫 | (株)ビーウエイズ |
| 久保田 翠 | アムズ | 祐乗坊 進 | (有)ゆう環境デザイン計画 |
| 高野 公男 | マヌ都市建築研究所 | 弓良 一雄 | ユミラ建築設計室 |
| 高橋志保彦 | 高橋志保彦建築設計事務所 | 横山 裕 | (株)グリーンシグマ |
| 高橋 雅夫 | (株)日本設計 | 吉田 博 | 東芝ライテック(株)SEセンター |
| 高見 公男 | 日本都市総合研究所 | 劉 弘 | (株)都市計画設計研究所 |

(敬称略・五十音順)

例会のご案内

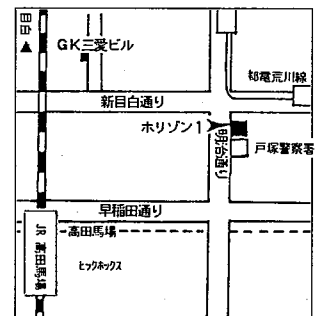
東京例会 第1回

日時：1991年 7月23日 (火)
 PM 6:30 - PM 9:00
 場所：(株)都市環境研究所分室
 文京区本郷 3-32-6 本郷ハイヴ 2階
 話題：都市環境デザインをとりまく環境
 (隔月3回ほど予定)
 第1回 話題提供者
 ・土田 旭 (都市環境研究所)
 ・篠原 修 (東京大学土木工学科)
 ・ほか1名 (環境デザイン)
 会費：1,000円 (夕食は済ませておいて下さい)
 連絡先：都市環境研究所分室 (土田)
 TEL:03-3814-1002 FAX:03-3818-1568 ◆申込先着30名までとします



東京例会 第2回

日時：1991年 9月10日 (火)
 PM 7:00 - PM 9:00
 場所：株式会社GK 会議室
 新宿区西早稲田 3-30-16
 ホリゾンビル7F
 話題：駅環境を考える
 (京都駅--- 話題のビデオを用意
 しております。)
 コメンテーター：
 佐野 寛 (東京学芸大学 教授)
 曾根幸一 (環境設計研究所)
 南条道昌 (都市計画設計研究所)
 林 泰義 (計画技術研究所)
 会費：1,000円 (夕食は済ませておいて下さい)
 連絡先：株式会社GK設計 (西沢or藤田)
 TEL:03-3989-9511 FAX:03-3989-0533 ◆申込先着30名までとします
 お早めにFAXにて御連絡下さい



関西例会 第1回

日時：1991年 7月22日 (月)
 PM 6:30 - PM 9:00
 場所：余部 (あまべ)
 大阪市福島区玉川町2-7-4
 TEL:06-441-6020
 会費：10,000円以下の予定
 連絡先：(株)ヘッズ 大阪本社 永井佐代子
 大阪市北区菅原町2-15 西島第5ビル
 TEL:06-364-9369

